

きまぐれあめ
気紛れ雨

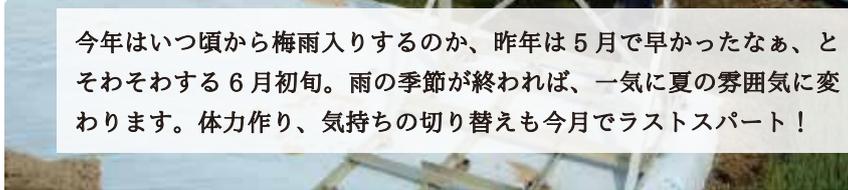


思いついたように降ったり止んだりする雨のこと。似たような言葉の、「気紛れ天気」は変わりやすい空模様のこと。晴れたり曇ったり、雨が降ったりと、お天道様に翻弄されますね。

雨が降ると、予定していた作業ができなかったり、足踏みすることもある。常に天気予報を見て、急な変化に対応できるように、農人たちは少し気を張ります。

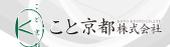
夏に向けての準備。
夏のメイン産地にもなる
丹後エリアでは
順調に定植が進んでいます。
農家は畑に広がるとおぼろげの
景色が楽しみですね。

今年はいつ頃から梅雨入りするのか、去年は5月で早かったなあ、とそわそわする6月初旬。雨の季節が終われば、一気に夏の雰囲気になります。体力作り、気持ちの切り替えも今月でラストスパート！



古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことわざだより

NO.181
2022年6月号
TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP
4A

春葱

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

過ごしやすい環境で育った春葱のお届けもラスト

今年の3月に市内で定植したねぎたちが収穫の時期を迎えました。1年の中でも、最もハウスで過ごす期間が長かった苗たち。定植後は、病気にならないように予防を行い、栄養を定期的に与えたり。比較的、穏やかだった京都市内の気候にも助けられ立派に育ってくれたなあと安心しました。



春から初夏の季節にかけて育ち、苗の状態から収穫まで1番早く採れたねぎたち。どこかフレッシュな顔ぶれの春葱、あとわずかの期間お楽しみくださいませ。

農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

全てはここから！苗の管理のことについて

こと京都では、現在年間通して美山のハウスで育苗をしています。冬場は雪の降る寒さが厳しい環境下で、そのためハウスでは毎日ストーブを焚いて、寒さに負けないように管理するなど、季節に合わせて苗の様子を伺い管理しています。今年も順調に育っていたのですが、定植間際の2月下旬頃から立ち枯れ病が起きました。美山から市内圃場に苗を運び定植を行いましたが、やはり一部の苗は圃場で生き残ることができず、定植後しばらくして消えてしまうことも…再度補植をするなどしていました。



収穫班も、作業応援で補植しています！

梅雨の時季の農人

6月は梅雨入りの季節です。毎日収穫を行っている農人にとっては辛い季節です。雨の中収穫を行うと泥が付いたり、ねぎにとっても良くないので、できる限り収穫をしないようにしていますが、連日雨が続きとそういう訳にはいきません。晴れの日だと、なんともない事も雨の中では、とてつもない労力になり、危険も伴います。また、今年は新人の農人3名が収穫班に加わったので、慣れないことは声掛けをしっかりとって事故防止に努めています。



収穫班に入、てもう2ヶ月が経ちました、早いです…！体力もついて慣れてきましたよ

とある日の農人日記。

26度の気温、真夏に比べたら全然ですが、まだ暑さに慣れていない時期なのでこたえました。さらに、早くも数匹セミの鳴き声が聴こえました。徐々に体を夏モードに切り替えていきます。(丹後エリア・浅尾)



こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。